

平成27年1月

# 上垣崇 学位論文審査要旨

主査 梅北善久  
副主査 山元修  
同 原田省

## 主論文

Inhibitor of apoptosis proteins (IAPs) may be effective therapeutic targets for treating endometriosis

(抗アポトーシス因子IAPは子宮内膜症治療の標的となる)

(著者：上垣崇、谷口文紀、中村和臣、尾崎充彦、岡田太、山元修、原田省)

平成27年 Human Reproduction 30巻 149～158頁

## 参考論文

1. The role of survivin in the resistance of endometriotic stromal cells to drug-induced apoptosis

(子宮内膜症間質細胞の薬剤誘導性アポトーシス抵抗性におけるサバイビンの役割)

(著者：渡邊彩子、谷口文紀、伊澤正郎、周防加奈、上垣崇、高井絵理、寺川直樹、原田省)

平成21年 Human Reproduction 24巻 3172頁～3179頁

2. Parthenolide reduces cell proliferation and prostaglandin E<sub>2</sub> synthesis in human endometriotic stromal cells and inhibits development of endometriosis in the murine model

(パルテノライドは、ヒト子宮内膜症間質細胞の増殖とプロスタグランジンE<sub>2</sub>産生を抑制し、マウスモデルにおける子宮内膜症の形成を阻害する)

(著者：高井絵理、谷口文紀、中村和臣、上垣崇、岩部富夫、原田省)

平成25年 Fertility and Sterility 100巻 1170頁～1178頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、ヒト子宮内膜症組織と培養子宮内膜症間質細胞、および子宮内膜症モデルマウスを用いて、IAP阻害剤が新しい子宮内膜症治療薬となり得るか否かを検討した論文である。子宮内膜症組織におけるIAPの発現亢進が、子宮内膜症の病態において重要な役割を果たすことが示唆された。さらに、IAP阻害剤がヒト子宮内膜症間質細胞の増殖抑制と、子宮内膜症モデルマウスの病巣縮小効果を示すことを明らかにした。IAPは子宮内膜症治療の新たな分子標的となることが示唆された。本研究は新知見に富み、その成果は生殖内分泌学研究に貢献するとともに、学術の水準を高めたものと認められる。